

# 2022 年秋学期語学留学/ディーキン大学 帰国生アンケート

※注意※ ここで紹介されているアンケート回答は**全て個人の主観によるもの**であり、あくまで『参考情報』としてみなさんに開示しています。**正しい情報とは限りません**ので、その点について了承した上で留学準備に活用してください。

## 1. 授業について

授業の形態や進め方はどんなものでしたか。

授業の種類は主に2つ、コミュニケーションに力を入れている GE クラスとアカデミックライティングに力を入れている EAP クラスがありました。事前にエッセイライティングのテストを受け自分に適したクラスに振り分けられます。午前が10時から12時の2時間、午後が1時半から3時までの2時間授業です。私は GE クラスを受講していましたが、比較的グループワークが多かったと思います。

コミュニケーションを中心とした授業が多かったです。グループで話し合った発表したり話す機会がたくさんありました。

先生が学期の最初に学生に英語の4技能の特にどの部分を伸ばしたいかを聞いてくれて、多くの学生がスピーキングとリスニング力を伸ばしたいと答えたため、プレゼンテーションやディスカッションの機会が多い授業でした。グループやペアワークが多く授業により積極的に取り組みことができました。教科書はインターネット上でダウンロードして使用していました。

授業はグループワーク、文法、テキストブック、スピーキングアクティビティなど1日に様々な授業内容が組み込まれていました。1日中机に向かって勉強する形態は少なく、スピーキング力を伸ばしたいクラスの要望に沿った授業だったと思います。

授業内容は文法、エッセイの書き方、グループプロジェクトがメインでした。ペアワーク・グループワークが多く会話する機会が多かったです。わからない部分があれば先生が手助けしてくれ、何度も説明してくださいました。

授業形態はまず現地に出発する前にクラス分けテストを受けてそのテストの結果に応じて初めのクラスを分けられます。授業内容に関してはそのクラスによってバラバラですが、授業の進め方は文法などのライティングスキルについての授業やスピーキング能力を上げるためのアクティビティなど映画のワンシーンなどを見てそこで言っていた発言内容についての問題を答えるリスニング能力を向上させるための授業などがありました。

私がいたクラスではスピーキングを中心として授業が進められていたので、グループワークやペアワークでディスカッションが多かったです。また、エッセイの書き方や文法も習ったのですが、それを教えてもらっている際も先生が学生に質問しながらでしたので、退屈を感じることは少なかったです。

レベルに沿ってやっていきテストで上限の点数以上とれればレベルが上がっていくシステムだった。

授業面では、基本的に今まで習った文法を英語で教えてもらったり、グループディスカッションをしたり、決められたプロジェクトに対して、メンバーと一緒に考え発表していました。人それぞれ感じ方は違うと思いますが、自分のクラスの進め方はちょうどいいのかなと思いました。

この時間はリスニング、などとは決まっておらず毎日授業内容は教科書に沿って行われたので、リスニングやリーディングなどやることは毎日様々でした。

5週間授業、1週間休みの授業形態で、5週間の間で1つのプロジェクトを完成させます。そのプロジェクトに必要な文法やスキルを授業中に学習します。また、最終週にあるエッセイのテスト、スピーキングテストに向けて、スキルの向上を目指しました。

グループワークが中心。文法の基礎からプレゼンテーション、クイズ、ラジオ制作など様々な活動をした。タームごとに何回か校外学習があり、メルボルンの街や歴史について学べる機会もあった。先生達も私達のレベルにあわせわかりやすい英語で指導してくれたのでよかった。

クラス人数、日本人と留学生比率、留学生の出身国などについて教えてください。

私のクラスの人数は15人ほどで日本人が9割、留学生が1割ほどでした。留学生はコロンビア人が多かったです。

クラスは16人ほどで三人がコロンビア出身でそれ以外は日本人でした。

1クラス20人弱で構成され、1人の外国人留学生を除くとほぼ日本人でした。外国人留学生はコロンビアの学生でした。レベルの高いクラスでは、多国籍の学生と関わる機会があると聞きました。

クラス人数は 20 人弱で、クラスの8割が日本人でした。クラスに 2 人ほど外国の方がいました。外国の方はサウジアラビアとコロンビア出身の方でした。

7, 8 割日本人、他 2, 3 割は外国人のコロンビア人と韓国、香港、中国、アラブ人とほとんど日本人ではありませんでした。1クラス 20 人もいなかったし、1グループ 4, 5 人で同じ席に座り、授業を受けました。

GE 日本人-18 人 外国人-3 人 EAP 日本人-10 人 外国人-10 人 コロンビア 中国 香港 サウジアラビア カンボジア

一クラスの人気はだいたい 15 人程度で、その中の7割が日本人、後はタイ人、中国人、アラブ系が多かったイメージです。

約 15 人。日本人が 9 割1割が留学生。香港、コロンビア、スペイン、中国。

### クラスの雰囲気はどんなものでしたか。

クラスは英語を積極的に話すクラスもあれば、すぐに母国語で話をして注意を受けるクラスもありました。日本とは違い、学生も積極的に発言、行動ができます。例えば、先生と一緒に発音をしたり、クラス全体でゲームをしながら学んだり、ホワイトボードに先生が問題を書きみんなで埋めていたり、先生だけでなく学生全員が参加していると感じられる授業でした。

違う点は発表しやすい雰囲気があることです。またゲームなどで楽しく英語が学べました。

授業中は、あてられる前に積極的に発言することが求められたり、グループやペアワークが多かったりし、座学ではないという点が日本の大学と違う点だと思いました。少人数だったため、クラスメイトと話す機会も多くすぐに打ち解けて話すことができました。

クラスメイト同士はもちろん、先生との繋がりも多かったのでクラスの雰囲気はとても良く毎日素敵な環境の中で授業を受けられていたと思います。日本の授業と最も異なる点は積極性だと思います。日本の授業では集団の中で発言することは少なく私自身も恥ずかしく感じていましたが、ディーケンの授業では先生やクラスメイトが関心を持ってくれるのでとても発言しやすい環境でした。

日本人が多かったので日本語が多く飛び交っていました。積極的に発言できるように先生が問いかけをしていましたが日本人学生は発言することが少なかったです。しかし、グループワークやペアワークではしっかりと話し合いをし、楽しい雰囲気でした。日本と違うと感じた点は、基本的に一人で問題解決することが少ないと感じました。また、基本的にパソコンや先生の電光掲示板を使用して授業が進んでいました。

クラスの雰囲気はやはり日本人が多いクラスというだけあって日本の大学とあまり変わらない雰囲気でしたが、クラスのみんが留学に来ているということもあり英語能力を上げようという意欲は高く、普段の授業内外かまわず、英語に関係しない会話は一切ありませんでした。

最初はみんな恥ずかしがって発言が少なかったのですが、机に向かって勉強するよりも話す時間が多く、最後の方にはみんなクラスに慣れてきて積極的に発言する人が増えていたかのように思います。また、クラスの机がグループの形になっているのでクラスの仲が深まりやすかったです。

グループワークやペアワークが多く発言を求められることが多かったです。

授業はオールイングリッシュでそれをしながら英語のゲームをしたりグループワークをしたりした。

グループで班になり相談、ディスカッションする場がありますが結局仲のいい人で固まっており、先生によって信仰の仕方に少し違いがありますがみんな同じ席に毎日座りがちでした。雰囲気は最初のほうはみんな様子を伺っており、先生に回答者を指名しないと発言しない子が多かったが慣れるとみんな積極的になり、発言も増え、お互いの意見を尊重するようにも見えました。

クラスの雰囲気はとても学習に集中できる環境でした。人に相談できる環境が常にありました。日本と違うのは学生だけでなく先生も違うなと感じました。発言をさせる機会をたくさん与えてくれました。そのおかげで自信に繋がったり何事にも失敗を恐れることなく発言することができるようになりました。

クラスの雰囲気は比較的にぎやかでした。しかしほとんどが日本人のクラスであったため、あんまり日本の授業と差ほど変わる様子はありませんでした。授業内容では、先生が各一人ずつ出席および問題の解答をさせるため一人が授業に出席していないということはありませんでした。

発言は自由にして、という感じでした。マジックドアという言葉が私のクラスではあり、教室のドアを開けた瞬間から母国語を忘れて英語のみで話さなければならないというルールです。雰囲気はとてもよく、座学で話を聞くという時間は多くなく、基本的にみんな何かしら発言をしていました。

クラスでも英語を話す学生もいれば、日本語を話す学生もいて、向上心の差を感じました。

### 授業の中で取り上げられたトピックで印象に残っているものは何ですか。

オーストラリアの森林火災でたくさんの人や動物が被害にあったというトピックが印象に残っています。オーストラリアの水不足と乾燥問題について興味を持つきっかけとなりました。

一番印象に残っているのは、グループで一つのラジオを作ったことです。英語でスクリプトや途中に挟む広告を考えることは初めてで最初は戸惑いながらでしたが、楽しむことができました。準備段階で、一度ラジオ局に見学に行き、また本番も実際にラジオ局で収録し、とても思い出に残りました。

テストの一環として行ったプロジェクトが最も印象に残っています。実際にラジオ局へ収録に行きポッドキャストを収録したことがとても貴重な体験になりました。

オーストラリアの歴史です。

授業内で取り上げたトピックで特に印象に残っているのは、グループワークです。二学期分の授業を受けていたのですが、初めの学期では自分たちの興味のあるトピックについてももちろん英語でクラスメイトに説明をして、説明後に Kahoot という問題作成アプリを用いてクイズを作りみんなで遊びました。もう一つの学期では自分たちでラジオ放送を録音するというグループワークに取り組みました。

最後のグループプロジェクトで各グループ(3-4人)で pod cast を作ったことが印象に残っています。何を話したらいいかや、声だけなのでどうやって声に抑揚をつけるかについてグループで話し合いながら進めていました。最後終わった時はとっても嬉しかったです。

アボリジニ民の動画を見て、オーストラリアの歴史を学ぶことができました。

ポッドキャストです。これは2ターム目のスピーキングテストの形式でしたが、実際にラジオ局に行きそこでレコードを撮りその出来が成績に直結するものになっていた。普段の生活では利用できるような場所で行うことが出来たのですごく印象に残ってます。

近代社会において今の若者の中で科学技術を多用していることに対して意見を述べよ」が僕の中で印象的でした。日本人でもこの問題はなかなか難しいトピックなのに、こういった問題を出された時は深く考えさせられました。

映画スターを紹介するトピックです。コロンビアのはやっている洋画と日本ではやっている洋画の違いを知ることができました。

ラジオ制作。実際にラジオを録音できる大学に行きパーソナリティーとしてラジオを録音した事がとても貴重な体験ができたと思う。自分たちの手で原稿を一から作り、先生に何度も確認してもらい長く時間をかけたので印象に残っている。

### 授業を受けるにあたって工夫していたこと、努力していたことはなんですか。

授業中は積極的に手を挙げる。わからないことがあればすぐに先生に質問する。留学生と英語でたくさん話す。これらを常に意識して授業を受けていました。先生が話すこと書くことを写真やノートにメモとして残し、いつでも見返せるように努めていました。

覚えたい単語はすぐメモをして単語ノートを作り覚えるようにしていました。

授業中は発言したりし、質問したり積極的に参加するよう心がけていました。授業で分からなかった箇所は先生に質問し、分かるまで説明してもらい、完全に理解できるよう努力していました。課題は多くなかったので、授業の復習に時間を当てることができ、特に文法を習った時は、練習として問題をたくさん解くようにしていました。

授業で使用したノートとは別に毎日授業で学んだことや自分なりに要点をまとめたノートを作っていました。予習、復習(特に単語の復習)を毎日必ず行っていました。

日本人同士で会話する時も極力英語で会話するよう心がけていました。また、わからない事や知らない単語も積極的に先生に質問していました。授業内でわからなかった単語を授業後に調べ、復習をしていました。

授業を受けるにあたり私が工夫していたことはどのような状況に陥っても英語を話してどうにかするようにしていました。例えば、先生の言っていたことがわからないことがあれば、日本人の友だちに対しても英語を使って助けてもらったりしていました。

日本人同士で会話する時でも英語を使う、授業中なるべく発言する、先生の言っていることが理解できなければ素直にわからないと言う、ということに気を付けて英語を話す機会を増やしていました。

コロンビア人一人と最終テストのためのグループで同じグループになり、積極的に話しかけました。そしてたまたま、簡単なスペイン語であいさつしました。席は決められていませんでしたが、毎回同じ席に座ると同じペアの子になってしまうので、週に何回か席を移動して他のクラスメイト達と交流できる

ようにしていました。
授業前に心の中で日本語から英語に訳したり分からなかった単語を覚えたりしていた。
外大と同じくオールイングリッシュですが、先生は日本語が通じないため自力で伝えなければならないので話し方を工夫しないといけない。そして、先生の指示をしっかりと理解するためにリスニング力を持っていないと授業で遅れを取ってしまうので、授業外でリスニングを補う勉強をしてついていくよう努力しました。
僕は始め本当に先生の英語が聞き取ることができなくて、問題が何を聞かれているのかとか全く理解することができませんでした。だから、授業終わりに分からないところを先生に聞きに行ったり友達に教えてもらうなどして必死についていってました。
積極的に発言をすることと、発音を恥ずかしがらずにすることです。
友達とも英語で会話することです。
わからない単語や熟語がでてきたらすぐに調べてメモを取るようになっていた。

## 2. 滞在先・自由時間の過ごし方について

ルームメイトはいましたか。	ルームメイトはどこの人でしたか。	通学手段	通学時間
2人	日本人	バス	45-60分
2人	日本人でした。	バス	60-75分
1人	学年が一個下の日本人留学生	電車	30-45分
1人	日本人	バス	30-45分
2人	日本人です。	バス	60-75分
0人		徒歩	15-30分
2人	一人は日本人、一人は香港人でした。	バス	15-30分
1人	コロンビア人	バス	15-30分
3人	3人とも日本人だった。	電車	30-45分
3人	22歳東京から個人で申し込みをした日本人と17歳のベトナム人でした。		15-30分
1人	日本人で、大阪出身でした。	バス	45-60分
3人	日本人二人、台湾人一人でした。	電車	15-30分
0人		バス	45-60分
1人	日本人	バス	30-45分
1人	日本人		0-15分

部屋に用意してあったものは何ですか。	自分で用意したものは何ですか。
机、椅子、ベッド、クローゼット、鏡	ドライヤー、ティッシュ
勉強机、ベッド、布団、枕、収納スペース	ドライヤー、シャンプー
ベッド、クローゼット、ルームメイトと共用のトイレ、シャワールームが用意されていました。勉強机と椅子がなかったのが少し不便でした。	洗濯用洗剤や、シャンプーやボディソープ等消耗品は日本から少し持参していましたが、すぐになくなったので、現地で購入して使用していました。
自室には勉強机、ベッド、クローゼット、収納棚がありました。ルームメイトとの共有スペースにはテレビ、ソファ、キッチン(コンロ無し)、冷蔵庫などが	毎日の生活に必要なものは全て自分で用意しました。

置いてありました。	
ベッド、クローゼット、ハンガー、机、タコ足配線	お風呂セット、洋服、洗濯用ネット、ハンガー、生理用品、文房具、スリッパ、ドライヤー、変換プラグ
ベッドと勉強机と簡単な荷物を置く用の棚が用意されていました。	食事以外はすべて自分で用意していました。例えば日用品のシャンプーや歯ブラシ、服など
机、ベッド、ベッドライト、冷蔵庫、棚、クローゼット、バスタオル、フェイスタオル、ティッシュ、ハンガーが部屋にありました。ハウスメイトとシェアで、ドライヤーとヘアアイロン、洗剤も用意してくれていました。	洗濯ネットくらいです。
ベッド、勉強机、棚、押し入れ、ハンガー、照明、ごみ箱、椅子	
ベッドや机など最低限の物は用意されていた。	服や歯ブラシなど生活で欠かせないもの。
ベッド、勉強机、棚、押し入れのみ	日用品、衣服、生活必需品等
ベッド、机、収納クローゼット	途中で切れた日用品など
折り畳みベッド、大きな鏡、机、ヒーター	髪の毛を乾かすドライヤーが向こうにはなかったので、現地で買いに行きました。後は歯磨き粉、服、洗濯ネット、などです。
机、ベッド、クローゼット、棚、ティッシュ、椅子、洗濯籠、机用ライト	水筒、スリッパ
机、イス、ベッド、布団、棚	シャンプーなどの日用品
ベッドセット一式、机、ドレッサー、ハンガー	歯磨きセット、タオル、シャンプー等、日用品

#### ホームステイ生活をする上で、日本と違って戸惑ったこと、驚いたこと。

お風呂は 5-10 分以内。日本のように玄関で靴を脱がない。食事は基本的に味が濃い。外国に悟る文化はないので、ネガティブな内容でもすべて伝える

シャワーしかないこと、土足生活

ホストファミリーが中国の方だったので同じアジアということもあり、特に生活するうえで大きな違いは感じませんでした。日本のように察する文化はないため、自分の意見は言わないと伝わらないということを実感しました。

渡航前から不安に感じていましたが、シャワーの制限時間が 5 分だったので最初の 1、2 週間ほどは少し大変でした。またメルボルンは 1 日の寒暖差が激しく、暖房器具もほとんど使用しなかったため(節電のため)部屋の中での温度調節が難しかったです。

洗濯回数、シャワータイムが日本よりも少なく、短かったのが初めは戸惑いました。

土足で家に上がることに慣れていなかったことくらいです。

私の部屋には時計がありませんでした。夕食は 6 時台に食べることもあり早かったです。

ウォシュレットトイレがなかったりシャワーとトイレがいっしょだったこと。

水が貴重のため洗濯が週に 1 回しかない。上手いこと服を使いまわさなくてはならない。トイレとお風呂が同じ部屋なので、同居人と時間が被らぬようにしなくてはならなかったこと。

ホームステイに着いた当初、僕が一番びっくりしたことは、シャワーが 3 分以内という時間制限をされていたことにびっくりしました。というのも僕が行った家庭には、水を貯えるタンクみたいな物がおいてあってそれでお湯などに変えているそうなのですが、週に二回お湯が止まる日がありました。その時はもうありえないと感じました。

室内やソファの上でも室内靴を履いて生活すること。

洗い物の仕方。お皿を洗剤で洗って、洗い流さず、そのまま拭いていたのでとても驚きました。

湯船につかれぬ。洗濯頻度。洗濯する時衣服を裏返さないと汚くなる。

ホームステイを快適に過ごすためのアドバイスをお願いします。

ルームメイトが日本人であったとしても英語で会話することはとても大切だと思います。どんなに言いにくい内容であっても正直に伝える努力をしてください。もし後々しんどくなっても伝えなかった自分が悪いと言われる。生活面で困っていること(食事の内容・家庭のルール等)は相談すれば変更してくれることもあるので、一度話してみるというと思います。

掃除をこまめにする、ホストマザーに言いたいことははっきり伝えること。

自分の意見は言うように努力しないと伝わらないので、一生懸命伝えるよう努力するほうが良いと思います。言葉や文化の違いを感じることは多くあると思いますが、分からないことは最初のうちに聞いておかないと理解不足で気持ちが伝わらないことがあると思います。

ホストファミリーやルームメイトと沢山話すことが重要だと思います。分からないことや困ったことはすぐに聞いて解決するべきです。

ルームメイトとしっかり話し合うこと、ホストファミリーに嫌な事・自分のしたいことはしっかりと伝えることが重要だと思います。

ホームステイを快適に過ごすには、ホストファミリーとよく会話することだと思います。よく会話をしていればホストファミリーとも仲良くなりますし、何をするときも許可や質問がしやすくなります。

育った環境が全く違う人たちと一緒に暮らすので、多少の不満は必ず出てきますが、「これも経験」と思うことが大切です。また、家ではなるべくリビングに滞在して、ホストファミリーやハウスメイトと話をすることで、仲を深めて自分にとっての居心地の良い第二の家にする事で快適になると思います。

自分から積極的にホストファミリーやルームメイトに話しかけ、会話を楽しむこと。

とりあえずホストファミリーやルームメイトと積極的に会話することは関係が深まったりするのでいいと思う。

何もすることがないときはリビングにいて英語で話す機会が増えるので、何もしていない時間がスピーキングの練習の場になる。あとは、娯楽系の何かを持っていくと、みんなで楽しめたり、一人でも時間をつぶすことができる。

ホームステイのことで何かアドバイスを挙げるとすれば、自分にあう食べ物がある程度買っておいの方がいいかもしれないです。向こうの食べ物が出なかった場合に買ったものを食べることになるのでその方がいいと思います。

少しでも不便に感じたことはホームステイ先の家族に言うことです。

ホストファミリーやハウスメイトとの距離を大切にすること。思いやり。いやなことされたら我慢せずに言う。

自分の価値観に捉われず、何事にも柔軟に対応するべき。ホームステイ先の方と頻りに連絡取るべき

パソコンは持参しましたか。	携帯電話	インターネットは部屋から接続可能でしたか。	その際に費用はかかりましたか。
はい	日本の携帯をそのまま持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	ワイヤレスで可能	いいえ
はい	日本から SIM カードを持参	LAN ケーブル/ワイヤレス共に可能	いいえ
はい	留学先で SIM カードを購入	ワイヤレスで可能	いいえ

大学主催のプログラム/イベント/ボランティア /サークルなど。	学内/学校近辺でよく利用した施設やお店など
大学主催のプログラムは、バディープログラムに参加しました。このプログラムは週 1 回×4 回あって、オーストラリア出身の同じ大学の学生と留学生数名がバディーとなりオーストラリアのことやお互いの国の文化について英語で共有します。イベントについては、遠足やハロウィンパーティーなど楽しめるものがたくさんありました。	学内のカフェやジムに行っていました。ジムは 10 週間無料で使用できたので通いやすかったです。学校の図書館で課題をすることもありました。
ハロウィンイベントには参加しました。	Chadstone や city によく遊びに行っていました。

大学主催の観光地を巡るツアープログラムが2度開催されていたので参加しました。	学内のカフェは放課後たまに利用していました。通学路にあるスーパーやショッピングセンターは学校帰りに買い物して帰ることが多かったです。
毎週木曜日に行われていた言語交流会に毎週1時間～2時間ほど参加していました。年齢も国籍も違う人たちが沢山集まる場で、最初は参加することが怖かったけれど、英語力向上や異文化理解に繋がる良い機会でした。また、学校が主催していた日帰りツアーやハロウィンパーティーなどにも積極的に参加しました。	放課後は週に1, 2回学内のジムに通いました。ほとんど毎日学内のカフェや図書館も利用しました。学外では帰り道にあるショッピングモールや小型商業施設を頻繁に利用しました。
学校主催のツアーへ参加、市シティー散策、現地のイベントへ参加	学内のジム、スーパー(Coles, ALHD, K-mart)、Melbourne Central Shopping Center
例えば、ILC ルームという英語を TOEIC の勉強や英語を話すスピーキング能力を向上させるためのアクティビティなどが用意されている部屋があって、そこで休み時間に英語の勉強をしに行ったり、大学に備え付けてあるジムに行ったりしていました。他にも有料ではありますが大学側が遠足を主催してくれていました。	学内ではカフェテリアや図書館を利用したりしていました。学校近辺ではバーガーキング(オーストラリアではハングリージャックスという)などのファストフード店などもあったのでそこで軽く軽食をとってから帰宅したりしていました。
放課後ハロウィンパーティーに参加しました。	お昼休みは、友達とランチを食べた後、バスケットボールやサッカーをしていました。放課後は図書館やカフェに行き勉強をしていました。そして大学についているジムにもいっていました。大学帰りには、Box Hill 駅によるのでそこで買い物したり、マックなどにも行きました。
週末の観光名所ツアーに参加して歴史の深いものや神秘的な場所に行き、その国にしかないものを体験しました。少しお金はかかりますがそれ以上の価値があると思います。	大学内のジムに週3で利用していました。その施設は私たちに10週間のトライアルとして無料で利用させてくれて凄く助かりました。
	ジムに行くか図書館で課題をしていました。

### 3. 留学前準備について

留学前に取り組んだ準備
ワクチンの3回接種
英語の語彙力を上げるため単語を覚えていた。
文法と日常英会話を再確認しました。帰国後に英語力の伸びを確認するため TOEIC を受けてから出発しました。
文法勉強
留学中はリスニング能力が必須になってくると思ったため、毎日数分でもいいのでリスニング能力の勉強をしていました。
ポッドキャストで英語のリスニングの練習も兼ねて日常会話で使えるフレーズを紹介しているチャンネルを聞いていました。
英語での自己紹介文を考えていました。簡単な英文フレーズを勉強していました。
英語の単語を少しだけ勉強した。
日本とはまるで似ても似つかない物価の高さがあったのでバイト等でお金を貯めましたが、それでも少し足らなかった気がしました。
たくさん洋楽を聞いたり、映画を見たり、単語や発音を勉強していました。また、日常会話の決まり文句なども一緒に復習していました。
単語力とリスニング力を上げるために努力しました。

### 留学前にしておけばよかったと思う準備

英単語をなるべく多く覚えること。現地に行ってこれだけはしておきたいということを書き出しておく。自分の現在の英語力を知っておく(テストの結果、ネイティブとどれだけ話せるか等)。目標設定をする。

もっと英語を勉強してリスニング力やスピーキング力を上げる必要があった。

留学に行った後に思ったのは、実用的な英語をユーチューブ等で学習しておけばよかったと思いました。普段使っている文法書や単語帳は復習するときのために持参した方が良くと思います。

コミュニケーションをする際にボキャブラリーの無さを感じたので単語量を増やしておけばよかったと感じています。

語彙力を増やしておく

留学前私はスピーキング能力の勉強を一切していなかったため、現地についてから初めの方はつたない英語を話していたのでよく聞き返されていました。なので、留学前にスピーキングの勉強をしておけばよかったなと思っています。

文法の勉強とボキャブラリーをもっと増やしておけば良かったと後悔しました。

もっともっと英単語を覚える必要があると感じました。

もっと英語の単語や文法などを勉強しとけばよかったと後悔している。

勉強です。英語はもちろんですが、自国の政治についてだったり、時事的なことも勉強して幅広い知識をつけるべきだった。

一つは自分の単語力の無さに圧倒されました。現地で会話をする上で知らない単語があるとまず、会話の内容すら分からないので単語を勉強しとけばよかったと思いました。あとはアクセントです。単語は知っていてもアクセントが違うと伝わらないので、知っていた方がよかったと感じました。

ラジオや海外のテレビ番組などを視聴して、本場の英語に慣れておくことです。

文法の基礎の見直し、単語と熟語をもっと覚える。

### 日本から持って行って役に立ったもの、または喜ばれたもの

化粧品、美容製品、エコバック、サニタリー製品、防寒着、薬、体温計、マスク

折り畳み傘と持ち運び扇風機

自分が食べたい日本食、みそ汁や緑茶などは持参して良かったと思いました。現地でも購入することはできますが、物価が高いのと輸入品ということで値段が数倍したので私の場合買うときに躊躇してしまいます。また、自分用のものとしては、生理用品や痛み止めは余分に持って行ったほうが良いと思います。ホストファミリーに折り紙をお土産として持っていたのですが、子どもに喜ばれました。おり方を教えながら一緒に遊ぶことができたり、話題づくりになるため良かったです。お土産を英語で説明できるよう用意しておくのと良いと思います。

ホストファミリーへのお土産として手ぬぐいと和紙で包まれた日本らしいお菓子(かりんとう)を持参しました。とても喜んでくれました。

日本のお菓子(抹茶味のキットカットなど)

日本から持って行ったもので役立つものは高機能の変換プラグです。当たり前だと思われるかもしれませんがこれが無ければ向こうで余計なお金を払わなければいけなくなってしまいます。また日本から持って行って喜ばれたものは日本の祭りのポスターです。私は日本で地元の祭りに参加しておりその時にいただけるカレンダーをホストファミリーに渡したのですが、これがとても喜ばれました。

シャンプー類、保湿系は何がいいかわからないので、持って行って良かったです。

折りたたみ傘。小さなショルダーバッグ。室内用スリッパ。ホストファミリーのお孫さんにけん玉をプレゼントしたら気に入ってくれました。

日本で買ったお土産をホストファミリーに渡してすごく喜ばれたので良かった。

DAISO などの 100 均で買える便利なものは安くて丈夫なため海外の方から驚かれました。

日本のインスタント味噌汁や文房具(消しゴムやボールペン)などはすごい喜ばれた。日本しかないものは基本的になんでも喜ばれる。

子供がいる家庭ならパイの実や知育菓子など。100 円ショップで買ったおもちゃなど喜ばれました。

日本のお菓子

単語の本。日本のボールペンとお菓子。



日本から持っていく必要のなかったもの	日本から持参すればよかったと思ったもの
大量の衣類とマスク、ドライヤー、電子辞書、コットン	ボストンバック、カイロ、バックのお米
洗剤	冬服
服や靴は現地で買うことが出来るので最小限に抑えるべきだったと思います。	防寒着(スウェットやジャケット、ヒートテックなど)をほとんど持って行かなかったので1日の寒暖差が激しいメルボルンでの生活に大変困りました。3か月間なかなか気温が上がらず予想していたよりも気温が低かったので、持ち運びできるライトアウターなどがあればよかったと思います。
インスタント食品、お風呂セット	冬服(コートなど)
シャンプーなどの水回りのものです。なぜなら向こうで日本で市販で売られているシャンプーや歯磨き粉なども普通に売られていたので、余計な荷物だったなと思っています。	日本から持参すればよかったと思ったものは特にありません。なぜなら、現地でもアジアストアなどがあるため、日本の薬など食べ物などが簡単に買えたからです。
日本のお菓子、ダイソー製品は簡単に手に入るので持っていかなくても良かったです。	ホストファミリーに見せるための現像した家族写真や、日本の建物、自分の写真など。
オーストラリアの気温が思った以上に寒くてこれから夏になると思い大量にTシャツを持って行ったがあまり必要なかった。	オーストラリアの気温が寒かったのもっと上着や厚着など持参すればよかった。
クレジットカード三種類 現金	カードの上限は20万円 現金は10万円ほど
ノート。ほとんどパソコンで授業をするためいらない。	参考書をもっていけばよかった。後は上着。土日何もない日とか授業後にTOEICやTOEFLの勉強ができる。
熱いと思って持って行ったTシャツはあまり着ませんでした。オーストラリアのメルボルンに行く際は、夏であろうがダウンと長袖を持って行った方がよいです。	洗濯ネットや保湿クリーム。乾燥がとてひどかったです。
夏服	コート

#### 4. 留学費用について

お金をどのように準備しましたか。	日本円でいくらぐらい準備しましたか。
クレジットカード、トラベルマネーカード、現金	クレジットカードは設定なし、現金とトラベルマネーカードを2万ずつ
クレジットカード、現金	クレジットカード40万、現金8万
現金1万円と上限30万円のクレジットカード2枚用意しました。	
クレジットカード2枚、日本円とオーストラリアドルを準備しました。	現金は日本円とオーストラリアドル合わせて15万弱準備しました。
クレジットカード、現金	クレジットカード上限10万円を2枚、現金7万円
お金はクレジットカードをマスターカードとビザカードの二枚用意し、主にこの二つを使って支払いを済ませていました。しかし、友だちとごはんに行ったときは割り勘になってしまうため、10万ほど換金をして現金として持ち歩いていました。	クレジットカード2枚で片方が上限30万もう片方が20万、現金は10万用意していました。
現金を少しとデビットカード2枚で過ごしてしまいました。	デビットカードには50万くらいと現金3万円で行きました。
現金とカード	現金20万、カード30万
お金は現金やクレジット、キャッシュパスポートを用意した。	クレジットカードは約25万で現金は約5万でキャッシュパスポートは約10

	万だ。
日本で通貨交換して、現地の現金を作り、あとはクレジットカードを2枚 (VISA と MASTERCARD)	現金6万、クレジットカードに上限10万と月上限30万のものふたつ
クレジットカードやキャッシュパスポートを持っていきました。あとは現金。毎月なくなったら親に何万円かチャージしてもらいました。	クレジットカードは上限25万、キャッシュパスポートは毎月5万くらいです。現金は5万程度持っていきました。
クレジットカードとデビットカードと現金です。	クレジットカード100万円上限、デビットカード、オーストラリアドル5万円分
現金半分とクレジットカード	現金10万と、クレジットカード月5万円

### 現地で支払った住居費と食費を教えてください。

食費は外食の場合、安くても1回10ドルくらいだと思います。
外大に支払ったお金と別に、外食や遊びに毎月10万円弱使っていました。最後の月は特にお土産をまとめて買ったので、3か月で合わせると約35万円つかいました。
食費は5~6万円ほどだったと思います。
普段自分が飲む水などはその人の消費量によって変わりますが、私は大体月7・8万ほどでした。
食費は外食の際の支払いのみ。物価が高騰しているため、10万円ほど。
食費だけで三か月十万以上は使っていると思います。
通学費用は一か月の定期が150ドルで約15000円でした。定期の区間という概念はなく、メルボルンだったらどこでも毎日乗り放題という感じがします。
テキスト代無料、通学費は往復で500円程度

### テキスト代と通学費はそれぞれいくらぐらいかかりましたか。

通学はゾーン内であればどこにでも行ける定期を使用していました。28日間で1万5千円ほどでした。
テキスト代は別途かかることはありませんでした。紙媒体のテキストはなく、オンライン上でログインするタイプでした。通学費用については、定期を一か月毎に約13,000円で購入していました。3か月で、約40,000円近くかかりました。メルボルンでは交通系ICカードが普及していて、バス電車トラムのすべての交通機関で使うことのできるカードを使用していました。
全ての公共交通機関で利用できる150\$の定期券を2度購入しました。
テキスト代:なし 通学日:1か月16000円弱
テキストは電子テキストなので0円でした。通学費はオーストラリアの通行系ICカードが配布され始めの30日間は定期券として利用できたためどこに行くとしても0円でしたが30日後は自分たちでICカードにチャージして移動していたため大体3か月間の留学で約3万ほど使いました。
通学費は一ヶ月15000円くらいの乗り放題バスを買っていました。テキストはパソコンで見る式だったので、費用はかかりませんでした。
通学費用は1万~2万です。
通学費は計2万円ほど。テキスト代はなし
通学費はだいたい2万前後だった気がします。
一か月10万以内にはおさめました。
月5万以下

### その他旅行や買い物など個人的費用は何にいくらぐらいかかりましたか。

遠足、乗馬が1万円以上でミュージカル鑑賞が6,500円くらいでした。そのほかは、軽食やカフェでの食事、お土産にお金がかかりました。食事はほとんどが千円以上です。お土産は1万5千-2万程していると思います。

20万程度

食費やお土産に主に使いました。物価が高いので最初は躊躇してたものも、慣れてしまうと高いと感じなくなってしまう余分に使っていたように思います。お土産や普段の買い物などセールの際にまとめて買うようになってからは、賢く買い物ができるとおもいます。

旅行は6万程、個人費は1か月3万程だったと思います。

一か月に15万円ほど使用していました。日用品に3万円、外食費に2万円、学校主催のツアーに計3万円ほど使用しました。

私はよく友だちと買い物に行っていたため、かなりの個人的費用が掛かりましたが、それでも月に10万以上使うことはありませんでした。

トータルで40万は使いました。

シドニー旅行に1000ドル、コンバースの靴に120ドル、スーツケースに180ドル、映画45ドル、服に400ドル、お土産に計400ドルなどです。

個人的費用は全部合わせて約35万行かなかったぐらいだった。

お土産に10万以上は使った。あとは、遊びに行った際の食費や娯楽施設の利用費

計30万円ほど。

旅行が渡航費込みで8万ぐらいだった気がします。後は現地で服や日用品、お土産など色々買って5万くらい？だと思います。

## 5. 学習面について

### 語学力・コミュニケーション能力の自己分析

語学力は伸びたと思います。これまで教科書で習ってきた単語や文法に加えて、実際にネイティブが使う言い回しをたくさん覚えました。これにより、コミュニケーションを取ることも容易になり、コミュニケーション能力も伸びたと感じています。

留学を通して積極的に話しかけることの大切さを学び、留学前よりも話せるようになったと感じる。

留学当初は聞き取ることすらできなかった英語も、生活していくうちにだんだんと聞き取れるようになり、自分の意見を言えるようになりと自分なりに語学力は成長したと思います。お店に行って買い物をする際も、必要最低限の会話すらできなかったのが、自分から会話を広げ店員さんと会話できるようになったのも成長したと思います。コミュニケーション能力は留学前に比べて伸びたように思います。

毎日ポキャブラリー向上を心がけて自分なりに学習していたので、スピーキング力、ライティング力ともに留学前よりも向上したと感じています。

リスニング力、自分の意思をしっかりと伝えるためのコミュニケーション力がついたと思います。

この留学を経て、日常会話程度ならすつなく会話できるようになりました。しかし、専門的な会話になるとやはり知らない単語なども出てくるのでまだ、どことなくつたなさが出てしまいますが、何とかついてこれるようにはなりました。

語学力は少しは伸びましたが、格段に伸びたわけではないです。軽い日常会話くらいができるようになりました。コミュニケーション能力はみについたと思います。困った時には街中で人に話しかけられるようになりました。

ルームメイトにコロンビア人の方がいて、彼と一緒に大学まで行ったり、ご飯を食べたりもしていたのでコミュニケーション能力はかなり成長したと思います。

語学力は成長した実感は湧かないが前よりも能力は向上されたと思う。

英語力は少し向上しましたがまだまだなのでこれからも勉強しなくてはならない。コミュニケーション能力はさほど変わらなかったが、より誰にでもフレンドリーになれたと思います。

行く前と比べると、確実に伸びてると感じます。やはり現地に行くと英語の環境に自然となるので嫌でも話さないといけないため何かを主張したい時も英語がいるため、話さないことには伝わりませんでした。なので行く前と比べると話せるようになりました。

語学力はとても上がったと思います。現地の友達も英語力が上がったねと褒められました。コミュニケーション能力も自分の中ではとてもあがりまし

た。積極的に知らない人に話しかけることができるようになりました。

初めてホストマザーとあったとき本当に何も話せなかったけど帰国する日車内で話がスムーズにできるようになっていて成果を感じた。

#### 留学前の目標とその達成度

留学前の目標は日本人同士でかたまたま、ネイティブと積極的に話すことでした。実際現地に行ってみると日本人が多く、完全に目標を達成できたわけではありませんでした。ですが、日本人のルームメイトと常に英語で会話したり、言語交流会に参加したりと英語に触れる機会を自分で増やしていったことはよかったのかなと思います。

目標はペラペラになることだったのですが、ペラペラにはなれませんでした。達成度で言うと、65%です。

様々なことにチャレンジすることを目標にしていた通り、留学中は現地ではできない経験をより多くできるよう考えるよりまず行動に移すように意識していました。大学が主催するイベントには積極的に参加し、違うクラスの外国人留学生に話しかけたり、休みの日は出かけて友人と思い出を作ったり、充実した日を送ることができました。

スピーキング力とコミュニケーション力の向上を一番の目標としていたので、ホストファミリーや言語交流会に参加して出会った現地の人と沢山会話することを毎日心がけました。そのため以前よりもコミュニケーションを円滑に行えるようになりました。まだ完璧ではありませんが自分の目標を8割ほどは達成できたと思っています。

コミュニケーション力を磨くことを目標にしていた。留学前に比べ、その能力は上がったとは思いますが完璧には程遠いと感じています。

留学前に私はこの短い期間で日常会話はそつなくこなせるようになろうと思ったため、その点においては90%ぐらいは達成できたと思っています。

留学前は外国人の友達をたくさん作って英語ペラペラになるのが目標でした。実際は、そんなにたくさん友達ができなかったのと、まだペラペラとは言えないです。

留学前に携帯のメモに目標を書いてから出発したのですが、その7割ぐらいは達成しました。

留学前の目標は日常会話程度のコミュニケーション能力を身に付けることで達成度は60%ほどでまだ足りていないと思う。

もっとスピーキングが向上するものだと思ってましたが12週間では環境になれたところでの帰国なので、もう少し時間があれば、目標達成により近づけたのかなと思いました。達成度で言うと5割です。

留学前の目標は、とりえず留学に行くと英語をはなせたいいな〜ぐらいの感じだったのですが、行ってみると英語力はもちろん、会話を使う上で注意することなど様々なことを学べる事ができ、いい経験になった。

留学前の目標は、流ちょうに英語を話せて意思疎通ができる程度にリスニング力をあげる。友達もできて、リスニング力はあまりあがった実感はありませんでしたが、スピーキング能力はあがったと思います。

日常会話ができるようになることが目標だったので、完璧とは言えないけど留学に行く前より話し方が分かるようになったから10が最高の評価なら6ぐらい。これから文法の基礎をさらに勉強して語彙力も増やしより流暢に話せるようになりたい。

#### 留学を通しての成長ポイント

どんなに難しくても正直に伝える力がついたと思います。ホームステイ先が2回変わったことで、誰かに悩みを話すこと、正しく伝えることがどれほど大切なのか実感しました。ホストファミリーから話してくれないと何もわからない、改善のしようがないと言われ、確かに自分の考えはアウトプットしないと理解できないと思いました。日本のように悟る文化がない海外で一番学んだことだと思います。

積極性とリスニング力は身についたと考えます。

留学を通して、問題解決能力がついたと思います。留学中は様々な問題が起き、その都度自分で解決策をみつけ行動しないとイケなかったのが、友人や先生に相談したりアドバイスをもらい助けてもらいながらですが自然と問題解決能力が伸びたように感じます。留学に行く前の私だと、相談すらできなかったのが、英語で状況を説明できるようになり語学力も成長したと思います。

3か月という短い期間でしたがやはり日本を離れて文化の違いや言葉の壁にぶつかりました。このような経験から自分で困難を乗り越える力、新しい事や異なる環境に適応する力が身に付いたと感じています。

留学を通して、行動力がみががれました。自分で英語を学ぶべくイベントへ参加したり、現地で友達を作ったりしました。自分のコミュニケーション能力をアピールポイントとして挙げたいです。

やはり、全てが英語を用いないといけない環境なので、リスニング能力とスピーキング能力が留学前とは比にならないほど、伸びました。

留学を通して、間違えた英語を話すことへの不安と話からにことを聞くことへの恥じらいがなくなったことが、自分が一番成長したポイントだと思います。

確実に留学前に比べて、リスニング力が上達したと感じています。洋画を見ていてもある程度の英文は頭にスッと入ってくるようになりました。

英語を訳す早さや聞き取る能力は自分にとって身に付いたと思う。

自分に自信が付きました。人生何が起きても、何とかできることが分かり、自分に自信があるときは物事が上手くいく気がして、自分に自信を持つことがすべての事に対する成功のカギだと思いました。

自分の中で確実に少し話せるようになっていいるなど感じました。何となくではありますが、聞き取れるような英会話は返せるようにまではなりました。ただ、英語を話そうとしたときに頭の中で日本語から英語に変換してから話すため、少し詰まった感じが今でもあるのでこれからもっと話せるようになるため勉強が必要だなと感じました。

困っていたら誰にでも話しかけて課題を解決しようとする力が身に付きました。

まず一つ目は何事も前向きに考えられるようになった。何かきっかけがあったわけではないけれど英会話を学ぶ上で自信なく不安そうに話していたら、それが相手につたわっているのが自分でも分かったため堂々としていたら自然と後ろ向きな考えはしなくなった。

#### 留学前/留学中/留学後の語学学習に対するモチベーションの変化

留学前は雑談ができる程度の語学力が身につけばいいと思っていました。そして留学中は、それだけでは物足りず誰かを元気にしたい、周りの友達を笑わせたいと思うようになりました。現在は英語または日本語を壁に感じている人たちの手助けをしたいと思っています。

留学前、留学中よりも今の留学後が一番モチベーションが高いと思います。

留学前は TOEIC 受験に向けて勉強してただけで何とかすると楽観視していましたが、留学当初は英語が聞き取れず話せない状況を受け自分の英語力の低さを実感し、もっと勉強しなければならないと思い焦りました。毎日英語を使う生活していくうえでだんだんと聞き取れ自分の意見を英語で言えるようになり自身がついてきたころには自然と勉強のモチベーションも上がっていきました。留学後の今は、英語に触れる機会が一気に減ってしまいましたが、実用的な英語を忘れないよう、英語で日記をつけたり、TOEIC に向けて勉強したりしています。

渡航前は留学する実感がなく英語学習へのモチベーションは低かったですが、実際にホストファミリーや現地の人との交流を機にもっと話せるようになりたいという英語への意欲と好奇心が高まりました。帰国後はモチベーションを維持できるように英語で映画を見たり資格勉強に励んだり毎日英語に触れることを心がけています。

留学前は文法・単語暗記をやっておけば良いと思っていましたが、留学中にはしっかりと人とコミュニケーションをとる事が重要だと感じました。日々学ぶことが多かったので留学後も英語でのコミュニケーションが取れる環境を自分でも探そうと考えています。

留学前は一週間に一回英語の勉強をしていれば上出来なくらいのモチベーションでした。留学中はみんなの会話を聞けるようになりたいという明確な目標があったので毎日単語の勉強をするくらいのモチベーションになれました。留学後は自分の弱点やもう少し伸ばさなければいけないポイントが留学中に見つけることができたので、今では週に 5 回 6 回程度は図書館や自分の部屋で英語の勉強をしています。

留学前:話せるようになりたいけど真剣になれない 留学中:流暢に話せるように頑張ってる勉強したい 留学後:もっと語学力を向上させてバイリンガルになりたい

留学中、もっとホストファミリーと会話を続けられるようにしたいと思い、英会話フレーズを勉強していました。

留学前はやっていけるかという緊張感があり留学中はついてこれないという焦りと苦しみがあったしかしこういう厳しいことを経験できたことはよかった。

留学前は留学に行けば勝手につくものだと思っていたがそうではなくかなり留学中に勉強して値からをつけなければならなくなりました。留学後は継続することの重要性を知りました。なので、何十年後の自分の理想に近づけるよう日々夢見てその姿をモチベーションにしています。

留学前は正直行くモチベもありませんでしたし、英語も全く勉強していませんでした。しかし留学中は自分の英語力の無さにショックを受け、そこから英

語に対する熱意が上がりました。そこからホストマザーや学校の先生に話しかけるように努力しました。留学後も変わらず英語のモチベは上がっております。

留学期→洋楽聞いたりする程度。留学期→英語のラジオを聞いたり、家族と会話したり積極的に会話をしていた。留学後→海外でできた友達と電話をしているので英語のモチベーションは比較的高いまです。

留学期前は正直全然勉強していなかったしモチベーションも低かったけど、留学先で様々な人とふれあい、自分が過ごしてきた土地とは異なる場所で生活した事で新しい事に触れることの楽しさに気づき、その可能性をより広げてくれる語学をもっと学びたいと心の底から思うようになった。

### 留学期 100%力を振り絞った瞬間

言語交流会でたくさんの人と友達になるために100%の力を振り絞ったと思います。そこでは英語を元々話す人もいれば、私のように留学をしている、またはワーキングホリデーをしている人もいました。第一言語が中国語、イタリア語、スペイン語、タイ語の人たちがたくさんいました。そこで私がこれまでに習ってきた、中国語やイタリア語で挨拶を試してみるととても喜んでくれました。英語を学ぶことをきっかけに、違う言語を話す人たちと仲良くなれたことは嬉しかったです。

授業でのスピーキングテストです。

学期末のテストで行われたラジオ収録は、初めてのことでとても緊張しましたが、英語を流ちょうに話せるよう努力しました。テーマを決める時には聞いている人が面白いと思うようなテーマにし、原稿も工夫して作りました。ネイティブスピーカーのマネをしたり先生に発音を教えてもらいながら、ずらずら話せるよう何度も練習しました。

各学期の最終週に行われるスピーキングテストとライティングテストに向けて毎日勉学に励んだので良い結果が返ってきた際にはとても達成感が感じられました。

留学期中に学内でのイベントへ参加した際に、英語で自分の意見を言い、相手の意見への反応をした時です。

外国人の友達と遊びに行く時に、英語で話が尽きないように話題を考えて話したことです。

自分が英語で会話をするときや授業を聞くときは100%力を振り絞ったと思う。

アドリブで何を聞かれるかわからない状態での質疑応答です。その際に自分の英語力のなさに痛感したり、思っていたよりうまく話せたり現状の自分の力量を知れた時です。

同じルームメイトとある日バーにいった時に、オーストラリア人と出会って僕は急に話しかけられたものだから、英語がうまいこと話せませんでした。しかし彼は、とっさの受け答え(英語で返す)ことができている、僕も何か話したいと思った時が一番力を振り絞った気がします。

長距離電車の乗り方が分からないときに駅員さんに聞いて目的地に着けたことです。海外の人は割と適当なので乗り方が分からない駅員もいました。わかる人に出会えるまでは大変でしたが力を振り絞った瞬間です。

ライティングテスト。先生に言われたことを全部メモして家に帰って復習して、以前提出し評価してもらったエッセイを見返し、先生のアドバイスに沿って書き直したり、全力でテストに向けて勉強していた時。

### 留学先大学の良かった点

ディーキン大学の施設内にカフェやジムなど授業以外にもネイティブと話せる機会がありとても良かったと思います。また、ILCtime、イベント、遠足、パディープログラムなど楽しみながら英語を学べる機会がたくさんあり、毎日充実していました。ホームステイ先の相談も迅速に対応してくださり安心できました。

先生がみんな面白かったです。

とても親身になってくれる担任の先生に沢山出会えたことが日々の学習へのモチベーションに繋がりました。また図書館やジム、カフェなど学内の環境が整っていたので充実した毎日を過ごせました。

安全で自然が多いところです。また、施設も整っていました。

施設がとてもきれいでカフェテリアなどが充実していました。ジム。先生。

向こう側から寄り添ってくれて自分に何が足りていないのか第三者目線で考え答えをくれることです。

色々なアクティビティがあったことです。遠足や、休み期間の時にもツアーを行っていたりしたことです。